(平成20年1月分)

部 門	市況の概要
野 菜	<p>1月期の野菜の入荷状況については、全般的には、生育・作柄ともに良好であったが、一部では重量野菜の産地廃棄等による出荷調整も見られ、さらに、土物類や果菜類を中心とした、一時的な低温等による影響も見られたため、結果として、入荷量は前年同期を3%下回った。</p> <p>価格は、品目によって若干の品薄傾向ではあったものの、結果として前年並みとなった。</p> <p>品目別には、かぶら、ほうれん草が入荷増の単価安で推移し、とまと、生しいたけが入荷増ながら単価高となった。さらに、長大根は、入荷増にあって価格は前年並みとなった。西洋にんじん、はくさい、キャベツ、なすは入荷減の単価高となった。きゅうりは入荷減ながら価格は前年並みとなった。レタス、ピーマン、玉ねぎは入荷減ながら単価安となった。ばれいしょは、入荷は前年並みで単価安となった。</p> <p>根菜類は、入荷が11%増加し、価格は7%安となった。 葉菜類は、入荷は9%減少し、価格は前年並みとなった。 果菜類は、入荷が7%減少し、価格は4%高となった。 土物類は、入荷が6%減少し、価格は10%安となった。</p>
果 実	<p>1月期の果実の入荷状況は、主力の柑橘類の入荷量が前年を大きく上回ったために、その他のほとんどの品目が前年を下回る不安定な入荷状況とはなったものの、結果的に前年同期を9%上回った。</p> <p>価格についても、柑橘類の価格低迷を背景として、結果的に前年同期を23%下回った。</p> <p>品目別には、みかんが入荷増の単価安で推移し、ふじりんごは入荷増ながら価格は前年並みとなった。さらに、伊予かん、王林は、入荷減ながら単価安となった。また、イチゴ、アールスメロンは、入荷は前年並みで単価安となった。</p> <p>柑橘類は、入荷が19%増加し、価格は45%安となった。 りんごは、入荷が3%減少し、価格は3%安となった。 いちごは、入荷は前年並みで、価格は5%安となった。 メロンは、入荷が24%減少し、価格は11%安となった。</p>

主要品目（野菜）	市況の概況
【根菜類】	
長大根	<p>長崎県，徳島県を中心とする入荷。年内出荷分が1月にずれ込んだことから入荷が増加し，前年同期を21%上回った。</p> <p>価格は，入荷増となったものの前年並みとなった。</p>
かぶら	<p>京都府を中心とする入荷。天候に恵まれ順調な入荷状況となった。入荷量は前年同期を23%上回った。</p> <p>価格は，豊作傾向で入荷増となったことと，加工業務の荷動きが悪く，前年同期を42%下回った。</p>
洋人参	<p>長崎県を中心に鹿児島県からの入荷。各産地ともに概ね順調な入荷状況ではあったが，昨年早魃の影響を受けた産地等もあり，結果として前年同期6%下回った。</p> <p>価格は，入荷減によって，前年同期を7%上回った。</p>
【葉菜類】	
はくさい	<p>愛知県，兵庫県，鹿児島県を中心に岡山県からの入荷。各産地ともに11月の早魃の影響を受け，結果的に前年同期を13%下回った。</p> <p>価格は，入荷減によって，結果的に前年同期を15%上回った。</p>
キャベツ	<p>愛知県を主力に兵庫県，大阪府，滋賀県からの入荷。各産地ともに12月以降の低温の影響から小玉傾向で，豊作傾向であった昨年を下回った。結果的に入荷量は，前年同期を15%下回った。</p> <p>価格は，入荷減に加え，春系を中心に量販店での特売需要によって，結果的に前年同期を31%上回った。</p>
ほうれんそう	<p>京都府を中心に徳島県からの入荷。近郷産地は栽培面積も減少傾向にあるが，各産地ともに天候もよく安定した入荷状況となり，結果的に前年同期を19%上回った。</p> <p>価格は，入荷増によって，前年同期を34%下回った。</p>
レタス	<p>兵庫県，長崎県を中心に徳島県からの入荷。各産地ともに前月までの前進出荷と周期的な天候不順によって，不安定な入荷となった。結果的に入荷量は，前年同期を5%下回った。</p> <p>価格は，入荷減ながら量販店での荷動きが悪く，結果的に前年同期を31%下回った。</p>

<p>【果菜類】 きゅうり</p>	<p>宮崎県を中心に滋賀県，高知県からの入荷。主力の宮崎県，高知県産が天候不順により，花落ち等の発生など不安定な入荷状況となった。結果的に入荷量は，前年同期を10%下回った。 価格は，入荷減ながら，前年並みとなった。</p>
<p>なす</p>	<p>高知県を中心に，岡山県からの入荷。各産地ともに，加温用重油の高騰から加温コストの抑制をされており，栽培環境は悪化しているため，不安定な入荷状況の中，入荷量は前年同期を17%下回った。 価格は，入荷減によって，前年同期を7%上回った。</p>
<p>トマト</p>	<p>熊本県を中心に福岡県からの入荷。主力の熊本産が低温の影響を受け，小玉傾向で生産量は少ないものの，中央市場の集散機能によって，結果的に前年同期を9%上回った。 価格は，入荷増ながら価格低迷した前年同期を4%上回った。</p>
<p>ピーマン</p>	<p>宮崎県を中心に高知県からの入荷。各産地ともに，前月から今月上旬までが前進出荷傾向であったために，中下旬にかけて全般的に入荷が減少した。結果的に前年同期を11%下回った。 価格は，下旬に入荷減による一時的な高騰が見られたが，結果的に前年同期を13%下回った。</p>
<p>【土物類】 ばれいしょ (メーク含む)</p>	<p>北海道を中心とする入荷。各産地ともに順調な入荷状況となり，結果として，入荷量は前年並みとなった。 価格は，消費の低迷から前年同期を21%下回った。</p>
<p>たまねぎ</p>	<p>北海道を中心に兵庫県からの入荷。北海道は概ね順調な入荷となったが，兵庫県産は在庫も少なく品薄の状況となった。全体としては前年同期を10%下回った。 価格は，入荷減ながら価格低迷が継続しており，前年同期を8%下回った。</p>
<p>生しいたけ</p>	<p>徳島県，和歌山県を中心に広島県，岡山県からの入荷。中国産の消費の減少に伴い，国内産の需要が高まりから入荷量は順調となった。結果的に，前年同期を3%上回った。 価格は，入荷増ながら国産需要の高まりから，高値での取引となり前年同期を10%上回った。</p>

主要品目（果実）	市況の概況
みかん （早生含む）	<p>和歌山県を中心に愛媛県からの入荷。高温早魃の影響から小玉中心の入荷となったが、昨年が極端な入荷減であったことから、前年同期を27%上回った。</p> <p>価格は、入荷増に加え小玉傾向で、さらに前年が裏年で極端な高値で推移したこともあり、結果的に前年同期を54%下回った。</p>
伊予かん	<p>愛媛県を中心とする入荷。作柄は良好なものの、小玉傾向で産地の出荷調整等もあり、入荷量は減少傾向となった。結果として、前年同期を3%下回った。</p> <p>価格は、入荷減ながら、昨年在柑橘類全般に高値相場であったことから前年同期を24%下回った。</p>
ふじ （サン含む）	<p>青森県を中心に岩手県、秋田県からの入荷。各産地ともに、大玉傾向でやや前倒しの出荷となったことから、結果的に前年同期を3%上回った。</p> <p>価格は、入荷量が微増ながらも前年並みとなった。</p>
王林	<p>青森県を中心とする入荷。本年はりんご全般の価格低迷もあり、入荷量は大幅に減少した。結果的に入荷量は前年同期を32%下回った。</p> <p>価格は、入荷減ながら前年同期を13%下回った。</p>
いちご	<p>福岡県、佐賀県、熊本県を中心に大分県、愛媛県からの入荷。各産地ともに12月の曇天と1番果の終期から2番果への切替わり等もあり、非常に不安定な入荷状況となったが、結果として入荷量は前年並みとなった。</p> <p>価格は、前年並みながら前年同期を5%下回った。</p>
アールス	<p>静岡県、宮崎県を中心とする入荷。各産地ともに栽培面積が減少傾向にあるが、結果として入荷量は、前年並みとなった。</p> <p>価格は、入荷が前年並みながら、昨年在高値で推移していたこともあって、前年同期を25%下回った。</p>